

2018年12月13日

頭の整理 補遺 8

竹濤軒

会計検査院が、「学校法人森友学園に対する国有地の売却等に関する会計検査の結果について」（平成 29 年 11 月報告）に係るその後の検査について》を公開した。

<http://www.jbaudit.go.jp/pr/kensa/result/29/h291122.html>

平成 29 年の「報告」提出後に財務省、国土交通省が公表した資料、財務省が会計検査院に提出した資料、それらを踏まえた関係者の再度の聞き取りに基づき、平成 29 年の会計検査の内容を再検討したものである。現時点で入手可能な情報を全て精査した上で簡にして要を得た報告にまとめたものである。報告全体がよく出来ているのであるが、重要な交渉の局面における関係者の認識・判断を図表にまとめたものがいくつか掲載されており大変有益である（図表 5[p.17]、図表 6[p.21]、図表 7[pp.24-27]、図表 8[p.39]、図表 9[p.47]）。時間のない人は、これだけでも見る価値があると思う。

これまで知られていなかったことも発掘されており、勿論それは極めて重要なことであるのだが、私がここまで記してきたことの大筋を修正しなければならないような新事実の提示は見られなかった。

この新たな報告で私が強く印象付けられた点を一つだけ挙げておく。2016 年（平成 28 年）3 月の土地売却交渉の開始時点において、近畿財務局が専ら瑕疵担保責任と損害賠償請求に如何に対応するかという点を憂慮していたということをこの報告は詳細に記述している（図表 6[p.21]、pp.23-30、pp.35-40、pp.44-49）。この点は当初より私が強調してきたことであるが、ここでまたこの判断を補強出来たことは幸いである。

本年 3 月以降、森友問題を巡って硬直した勸善懲悪図式に縛られた正義のヒーロー達が醜態をさらした*。その意味で今年はひどい年であった。そんななかで年の終わりに会計検査院がこのような全うな報告を公表してくれたことに深く感謝したい。

*将来、新たな証拠が発掘されてまた認識を改める必要が生じるかもしれない。しかし、〈予め〉言うておくと、そのときには彼らの〈先見の明〉を褒めるべき、とは私には思えない。確実な証拠の無いままに人を疑い罵り続けたという事実は残る。ここで失われた信用は簡単には回復できないであろう。